

人類が思い描いた夢を、  
化学のチカラで、  
ひとつひとつカタチへ。

SHOWA  
DENKO

具体化。

www.sdk.co.jp

TechnoAmenity ～私たちはテクノロジーをもって人と社会に豊かさや快適さを提供します～



紙おむつに使われる高吸水性樹脂。  
その保水力を砂漠の緑化に活かす  
プロジェクトに取り組んでいます。



次世代のクリーンエネルギーとして  
期待される燃料電池に使う  
発電セラミック膜を開発しています。



高耐久性が求められる大型建設現場で  
高強度コンクリート混和剤用ポリマーが、  
お役に立っています。



紙おむつに欠かせない  
高吸水性樹脂を  
世界へ供給しています。

株式会社 日本触媒 大阪本社 〒541-0043 大阪府大阪市中央区高麗橋4-1-1 興銀ビル  
東京本社 〒100-0011 東京都千代田区幸町1-2-2 日比谷ビル

日本触媒

国際化学工業協会協議会

# ICCA理事会 日本で初開催

ICCA理事会では、地球の持続可能性に貢献する化学業界の自主活動「レスポンスブル・ケア世界憲章」の改訂を議論した。同憲章は2006年にドバイで開かれた国連環境計画(UNEP)主導の化学品管理に関する国際会議で発表。化学物質の開発から製造・物流・使用・最終消費を経て廃棄に至る全ての過程で健康・環境に配慮することを経営方針で公約する目的だ。

今回、採択を決議した改訂版は地球の持続可能性への貢献に重点を置き、①化学製品の安全管理を支える社内リダーシップ文化育成②設備や製品の安全性を高め人々の安全と環境確保③化学品質管理システム強化④ビジネスパートナーへの安全管理推進⑤スウェーデン・ホルムステッド・グリン・ケミカル・ホールディングスの改訂の狙いを、「化学企業が自社の製品のリスク評価を行い、適正管理する自主活動」「グローバル・プロダクト・ストラテジー(GPS)」を組み入れ、用語を見直すことで、

## 化学品安全管理を徹底 「世界憲章」の改訂を決議

5月29日、世界50カ国・地域以上の化学業界団体が加盟する国際化学工業協会協議会(ICCA、クルト・ボック会長、BASF会長)の理事会が東京・丸の内パレスホテル東京で行われた。アジアでの開催は初めて。世界を代表する化学企業15社のトップが世界の化学産業界が抱える課題を共有するとともに、化学産業の発展について意見を交わした。ICCAの理事会を日本で開催することで、日本の化学産業界を世界に広アピールする機会となった。



ICCA理事会ではレスポンスブル・ケア世界憲章の改訂を議論

## 新興市場へも導入

ICCAの重要な活動の一つに「化学品の安全性向上」がある。化学品は安全に使ってもらうことが社会の役に立ち、業界の発展も持続可能となるからだ。自主的活動の基本としてレスポンスブル・ケア活動は先進国に定着し、ICCAはアフリカなど新興市場への導入を支援している。

ICCAの重要な活動の一つに「化学品の安全性向上」がある。化学品は安全に使ってもらうことが社会の役に立ち、業界の発展も持続可能となるからだ。自主的活動の基本としてレスポンスブル・ケア活動は先進国に定着し、ICCAはアフリカなど新興市場への導入を支援している。



記者会見後に固く握手を交わすボックICCA会長、小林日化協会会長、リパリスICCA理事(左から)は13年、アジアと東欧、南米でGPSに関するワークショップを13回開催。GPSの原則を、化学品の購入先の各国の化学産業界の参加は40以上に達している。新興国で持続可能な性への貢献を育成するには、環境に優しい生産システムの普及を推進する知識・技術レベルの協力は不可欠。こうした協力を続けることが、真にグローバルで健全な化学品管理プログラムを策定するための重要な課題になりそうだ。

## 化学は21世紀に何を指すべきか

各国リーダーが意見交換



ICCA理事会後に「ICCAシンポジウム」化学は21世紀に何を指すべきかが開催された。基調講演に野依良治、理化学研究所理事長、パネルディスカッションにはBASFのクルト・ボック会長、ダウ・ケミカ

## ICCAシンポジウム

野依氏は化学が社会に貢献した実績と、イノベーションの必要性について紹介。また、若い世代に対し「人は一人では歩めない。21世紀は国際協力が必要で、世界は一つだ」ということを忘れてはならない」とメッセージを送った(写真下)。



野依氏は化学が社会に貢献した実績と、イノベーションの必要性について紹介。また、若い世代に対し「人は一人では歩めない。21世紀は国際協力が必要で、世界は一つだ」ということを忘れてはならない」とメッセージを送った(写真下)。

識を強め、また専門の人材育成、スキル向上のために、業界全体として教育に投資しないと、いけない」と化学が社会にもたらす貢献への理解と人材育成の重要性を訴えた。アルマデイ氏は「原料・技術で協力する余地がある」と協力範囲の拡大に期待する。パネリン氏は「資源を極力使わない循環経済を新たな目標とし、強調・協力を求めている」と化学業界に求められる活動の説明。メ

## 100年 ミッション



100年前、空気分離技術による酸素の生産から始まった大陽日酸の歴史は、鉄鋼、化学、エレクトロニクスなどの基幹産業の成長とともに歩み、その間、ガス供給にとどまらず、プラントやMOCVD装置、排ガス処理装置など関連機器も同時に開発。今や国内はもとより北米、欧州、中国、東南アジア、インドなどグローバルに事業展開するガス総合メーカーへと成長しました。そして現在、私たちが切り開いてきた高度なガス製造・制御技術が、再生可能エネルギー・超電導・高度先端医療・IT・宇宙開発に貢献しています。これからの100年、食料・健康・環境・IT・エネルギーのためにガスで未来を拓く。それが私たちガスプロフェッショナルのミッションです。

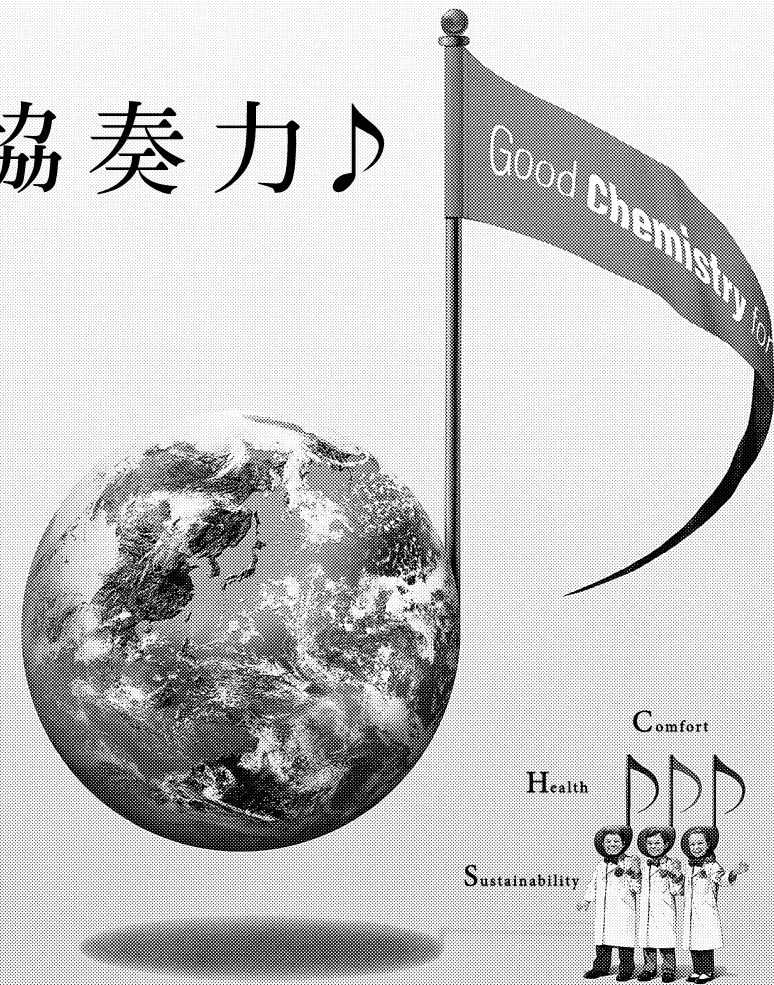
大陽日酸  
The Gas Professionals

東京都品川区小山1-3-26 東洋Bldg.  
TEL.03-5788-8015 www.tn-sanso.co.jp

## THE KAITEKI COMPANY

三菱化学 田辺三菱製薬 三菱樹脂 三菱レイヨン 生命科学インスティテュート

## 協奏力



競争の時代。  
でもわたしたちがまず目指すのは協奏すること。  
ド・ミ・ソが、うつくしい和音を奏できるように、  
グループ各社が、お互いの知恵や  
チカラを響かせ合う。  
ひとつの企業、ひとつの事業分野だけでは  
決して生み出せないこのハーモニーこそが、  
三菱ケミカルホールディングスの競争力なのです。  
資源をまもり、環境にやさしく、  
いのちと暮らしをもっと豊かに。  
わたしたちの仕事は、  
人・社会・自然のすべてに関わるものづくり。  
だからこそいつも、その調和に  
きちんと耳をかたむけながら、  
快適な地球に必要なものを、  
一つひとつカタチにしています。

株式会社 三菱ケミカルホールディングス  
www.mitsubishichem-hd.co.jp